

札幌市の行政評価

平成 25 年度版

行政評価とは？

施策や事業の定期的な
診断ツールです

市が実施する全施策・予算事業を対象として、定期的かつ継続的に実施結果の検証を行うとともに、課題を明らかにし、今後の方向性を検討します。

自己改善ツールです

事業を実施している立場で主体的に施策や事業を評価し、その結果を自らの仕事に活かしていきます。

市民の皆さんへの
情報提供ツールです

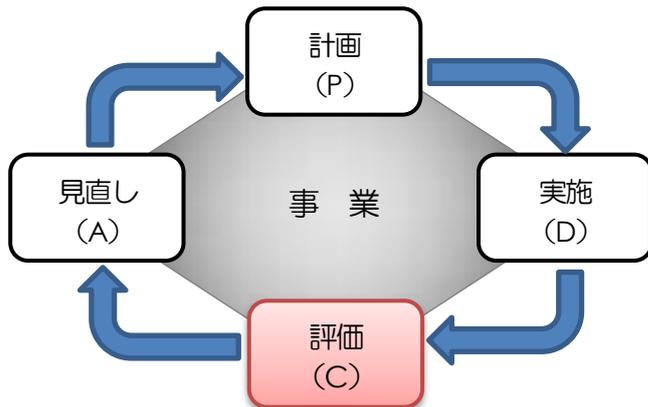
評価調書は公表し、市政運営の現状や課題、さらに見直しの検討過程を市民の皆さんに積極的に情報提供していきます。

事業は「計画～実施～評価～見直し」のサイクルで毎年繰り返されています。

行政評価は、サイクルの中の「評価」の役割を担う仕組みです。

- ◆ 事業の必要性は高いのか
- ◆ 役に立っているのか
- ◆ 効率的に実施できたか

など、様々な角度から点検・評価を行います。



行政評価の方法

自己評価

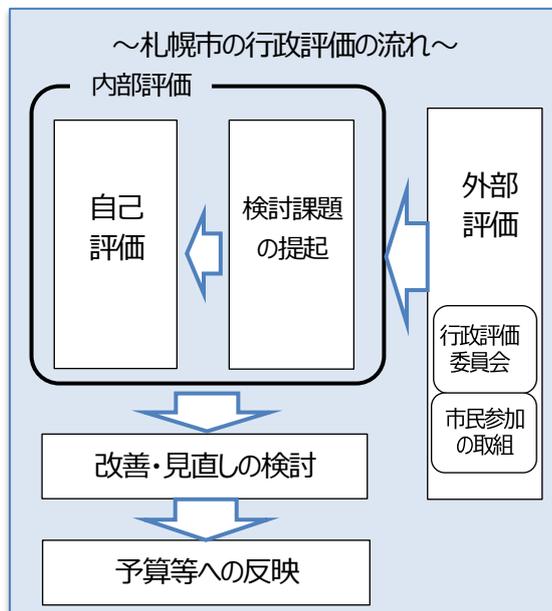
全ての予算事業とその上位目標である施策について評価調書を作成し、見直しや改善に向けて、事業所管局による自己評価を行います。

検討課題の提起

見直し・改善の状況を踏まえ、全市的な方針に基づく総合的・組織横断的な視点から、事業所管局によるさらなる見直し・改善に向けて検討すべき課題の提起を行います。

外部評価

市外部の有識者からなる「行政評価委員会」が施策・事業を選定し、客観的な視点による評価を行います。また、委員会と連携して、市民が直接参加する「市民参加の取組（ワークショップ）」を実施します。



行政評価の結果(概要)

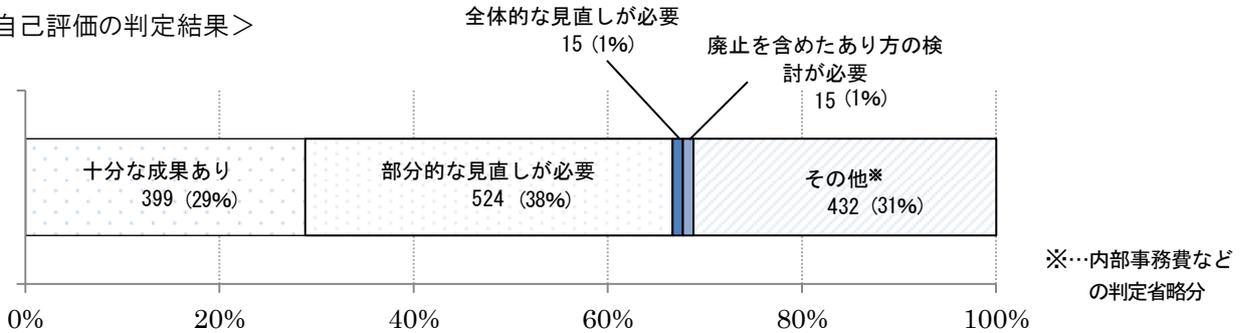
平成 25 年度の行政評価（検討課題の提起）の結果、

約 1 億 6 千万円の見直し効果額を平成 26 年度予算に反映しました。

自己評価の結果

◆ 評価対象数 36 施策 - 1,385 事業

< 自己評価の判定結果 >



検討課題の提起の結果

◆ 評価対象数 67 項目

【見直し効果額（平成 26 年度予算） 164,966 千円】

総合的・組織横断的な視点に基づき、67 の項目について、改善に向けた指摘を行いました。そのうち 16 項目について、平成 26 年度予算に約 1 億 6 千万円の見直し効果額を反映しました。見直しを行った主な項目は以下のとおりです。

◆ 民間活用の推進	効果額 (千円)	◆ 事業の内容やあり方等の見直し	効果額 (千円)
・ 学校給食調理業務の委託の拡大	42,394	・ 学校業務員の業務執行体制の見直し	48,485
・ 道路パトロール業務の委託の拡大	4,716	・ さっぽろコンテンツマーケット創出事業の見直し	7,933
◆ 受益者負担の導入	効果額 (千円)	・ 首都圏ビジネス・マッチング支援事業の見直し	4,800
・ 市立幼稚園の預かり保育料徴収の実施	22,135	・ ミニさっぽろ開催費負担金の見直し	3,752

◆ 平成 22 年度市民評価（いわゆる事業仕分け）に対するフォローアップ（継続検討分）

平成 22 年度の行政評価における市民評価で見直し等の指摘を受けた 79 事業のうち、継続検討としていた残る 7 事業の検討結果についてお知らせいたします。

事業名	市民評価の判定結果	検討結果
保養センター駒岡管理運営費	不要(廃止)	市外部の有識者等による施設の在り方に関する検討結果を受け、方針を決定した。維持運営経費の縮減等を図りながら、介護や支援を要する方やその家族が利用しやすいような環境を整えるなど、民間施設では担うことが難しい役割を果たすため、施設を存続する。
健康づくりセンター運営管理費	不要(廃止)	市外部の有識者等による施設の在り方に関する検討結果を受け、施設存続の方針を決定した。平成 26 年度から重視する対象者を設定して利用勧奨を行い、3 館の機能分担や料金制度等を見直す。
駐輪防止対策費	見直し	都心部における更なる駐輪場の整備について、市民意見等を踏まえ、平成 25 年 3 月に本市の方針を決定。駐輪マナー等の啓発については、官民協働で効果的・効率的な対策に取り組む。
歩行者と自転車の共存する空間の創出事業	見直し	最短で平成 31 年度の放置禁止区域の拡大と放置自転車の即時撤去を目指すほか、都心部に約 5,000 台の公共駐輪場を確保し、安全な歩行空間の確保に努める。
宮の沢屋内競技場	廃止を含む見直し	道内におけるライフル射撃競技の活動拠点としての施設の必要性から、平成 26 年度からの次期指定管理期間も施設を維持することとし、利用者団体と協議したが、現指定管理者より効率的な施設の管理運営は困難との結果であった。今後は指定管理者と協力し、稼働率の向上等、より効率的な施設管理を行う。
中島体育センター	廃止を含む見直し	新中央体育館の改築にあたり、多様な利用が可能となるよう設計を進めている。中島体育センターが担う中央区民の利用等の受入れについて、新中央体育館完成後、利用者の推移を踏まえ、施設の在り方について判断する。
施術費	さらに市として効果等の検証が必要	国保運営協議会のもとに、あり方検討会を設置し、制度の今後のあり方について平成 26 年 3 月まで検討する予定。 その後、検討会の報告を踏まえて、平成 26 年度の早い段階で、市としての方針を決定する。

外部評価の結果

平成 25 年度は、行政評価委員会における評価対象事項のうち、特に市民の皆さんの目線や感覚を踏まえる必要性が高いと判断したテーマについて、市民の方が意見交換を行う機会(ワークショップ)を設ける形で市民参加の取組を実施し、それによって得られた市民ニーズの傾向等を踏まえて、行政評価委員会としての評価結果をまとめました。

行政評価委員会による評価の概要

札幌市行政評価委員会では、平成 24 年度に実施した予算小事業 1,385 事業とその上位目的である 36 施策のうち、次の 3 施策 51 事業を評価の対象としました。

指摘の総数は 32 件ありました。今後は、指摘事項について改善・見直しの検討を進め、フォローアップしていきます。

評価対象施策／事業	指摘数※1	主な指摘事項※2
1 日常の身近な暮らしの安心の確保 ◆消費者行政、DV 関連事業 「消費者センター運営費」、「消費者被害防止ネットワーク事業費」、「DV対策推進事業費」等の全 6 事業	10 (-)	◎消費者センター業務の意義・役割の明確化について 基礎自治体である札幌市が当該業務を実施する意義・役割を明確にし、札幌市の特徴的な取組を進めること。 ◎DV 相談業務等の検証について 当該事業の効果を検証する上で必要となるデータを収集、記録し、事業の有効性・効率性の向上を図ること。併せて、業務のチェック体制の在り方について検討し、その結果を示すこと。
2 道都札幌を支える交通体系の構築 ◆公共交通関係事業 「SAPICA 導入活用推進費」、「路面電車延伸推進」、「公共交通ネットワーク確保対策事業」等の全 11 事業	11 (6)	◎SAPICA の導入促進に向けた取組について SAPICA 導入の市の考え方の周知に努めるとともに、ウィズユカードと SAPICA の今後の在り方について、速やかに市民に示すこと。 ◎バスの利便性向上に向けた取組の促進について 誰もが利用しやすいバス事業にするために、わかりやすい路線図などの案内表示、運行状況を表示するシステムなど、バスの利便性向上の取組について、市が主体的に事業者と協議し、検討を促すこと。
3 みんなで進めるごみ排出量の抑制とリサイクルの推進 ◆ごみ減量、リサイクル推進関連事業 「資源回収実施団体奨励金」、「家庭ごみ処理手数料管理費」、「家庭ごみ収集事業費」等の全 34 事業	11 (4)	◎ごみ減量に向けたより効果的な普及啓発について ごみの分別方法やごみ減量の情報を市民にわかりやすく周知するなど、市民が取組やすいよう、より効果的な普及啓発をすること。 ◎リサイクル推進の取組について 分別方法やその周知方法が適切か検証し、リサイクル推進の取組について、必要に応じた見直しを行うこと。

※1 「指摘数」欄の()内の数値は、各施策に関連する指摘のうち、「市民参加の取組」から得られた結果(市民ニーズの傾向等)を反映させた指摘の内数。このうち、施策 1 は、「市民参加の取組」の対象となっていないため、()内は「-」としている。

※2 「主な指摘事項」のうち、施策 2 と施策 3 に関する指摘事項は、いずれも「市民参加の取組」の結果を反映させたものを掲載している。

市民参加の取組(市民参加ワークショップ)の概要

市民参加の取組は、次の2つを対象テーマとして実施しました。

実施にあたっては、対象テーマに関連する市の取組について、参加される市民の方の考え方をもとに議論を行っていただきました。議論の密度を高めるため、事前に対象テーマに関連する市の取組内容の勉強会にご参加いただいた後、ワークショップを開催しました(9/29(日)開催、85名参加)。

ワークショップにおけるご意見をその内容の傾向別に分類したものは、次ページのとおりです。

【対象テーマ】

- ①人口減少社会の到来、少子高齢化の進展等を見据えた、市民の足としての公共交通のあり方について
- ②ごみの一生とリサイクルの推進について

市民参加の取組（市民参加ワークショップ）における市民意見（抜粋）

◆テーマ①：人口減少社会の到来、少子高齢化の進展等を見据えた、市民の足としての公共交通のあり方について

分類	内容
利便性の高いICカード等の普及	利便性の高いSAPICAやドニチカキップなどをもっと普及させることや、その使い方やポイントについて、もっと市民にわかりやすく紹介することについての意見があった。
バスの利便性を高めるためのわかりやすく便利な情報提供	バスの利便性を高める観点から、路線図の文字を拡大したり、絵や写真を用いて案内表示をわかりやすくするとともに、バスの待ち時間をお知らせする仕組みの導入などの提案があった。
自動車利用を減らす取組	ノーカーデーをもっと広めていくことや、市内の混雑解消、公共交通を利用しやすくする観点から、都心部への自家用車の乗り入れを抑制することの提案があった。

◆テーマ②：ごみの一生とリサイクルの推進について

分類	内容
ごみ減量・分別を促すための情報や取組を発信	ごみ収集・減量のルールの周知を強化することや、生ごみを更に減らすエコクッキングなど、市がごみ減量に関する情報や取組について、様々な媒体を使って市民に発信することについての提案があった。
リサイクル・リユースの推進	衣類などリサイクルできるものは、きちんとリサイクルできるような分別を考慮することや、修理して再利用するリペアの推進などの提案があった。
生ごみ減量に向けた取組の推進	生ごみの水切りによるごみ減量効果と関連グッズをPRすることや生ごみの拠点回収による堆肥活用のシステム化など、生ごみ減量に向けた取組についての提案があった。



〔「市民参加の取組（ワークショップ）」の様子〕

札幌市 市長政策室 改革推進部 推進課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所 10階北側

電話：011-211-2061 FAX：011-218-5194

Eメール：kaikaku@city.sapporo.jp

ホームページ：http://www.city.sapporo.jp/somu/hyoka/index.html



さっぽろ市
02-A03-13-1856
25-2-324